



104

編集 知道会広報委員会
〒310-0011 水戸市三の丸3-10-1
茨城県立水戸第一高等学校内

発行人 稲葉節生
発行日 令和6年5月1日
通巻 第104号
HP www.chidokai.jp
メール chidokai_mito@chidokai.jp



〈目次〉

令和5年度 海外派遣プログラム(米台) 実施報告	1
第73期第51回代議員会	3
一高だより	3
地域・職域等知道会	6

令和5年度 海外派遣プログラム(米台)実施報告

令和6年2月～3月にかけて、海外派遣プログラムが、初めて台湾・米国の2班で実施されました。

台湾

令和6年2月25日から2月29日の4泊5日の日程で、高1生26名と中3生14名が台湾での海外派遣に参加しました。昨年度までに4度実施されたアメリカ海外派遣プログラムを発展解消させ、アメリカと台湾への2方面派遣に、そして、参加対象者も高1生のみならず中3生が含まれることとなりました。それに伴い、参加者もアメリカ方面40名と台湾方面40名の計80名を派遣するプログラムとなりました。本プログラムの実施には知道会および常陽知道会から多大なご支援とご声援を頂いたことを深く感謝いたします。

初日は移動のみであり、実質的に台湾でのプログラムは2日目からスタートしました。最初の訪問地は、国立新竹科学園區実験高級中学でした。1時間という制限がありましたが、張校長先生から直接、学校の概要についてご説明いただくとともに、図書館など校内の見学や記念品交換等を行いました。そして、来年度以降のより深い学校交流に発展させることを確認することができました。その後、先月熊本に日本工場を

開所した世界最大の半導体メーカーである「TSMC」の本社へ移動し、TSMC博物館を見学しました。ここでは、TSMCの半導体製造、歴史、創始者について説明を受けました。昼食後に、台北市立大理高級中学校に向かいました。

大理高級中学では、楊校長先生をはじめとした先生方やバディとなる生徒たちに校門前で盛大に迎えて頂きました。大理高級中学生は昨年度、水戸一高に訪問しており、高2生全員による歓迎セレモニーやバディによる授業参加などで歓待し、大理高級中学生に「ディズニーよりも楽しかった」と言わしめるほどでした。その返礼代わりに「熱烈歓迎」でもあり、高2年によるもてなしがきっかけで生まれた両校の絆の証でもありました。そして、今回参加した生徒たちにも強烈なインパクトを与え、両校の繋がりがより強いものになりました。

3日目は、故宮博物院を見学しました。残念ながら有名な「翠玉白菜」は他館への貸し出しのため鑑賞することはできませんでしたが、数えきれない秘宝に触れることができました。午後は、旧帝国大学のひとつである国立台湾大学に訪問しました。そこで文学研究院の張文薫副教授兼研究院長から日本語での歓迎を頂いた後、謝欣苓先生から、様々な時代の台



国立台湾大学訪問

湾の姿を描く映画を通して、台湾における多文化の様相に触れる特別講義をしていただきました。生徒たちも興味深く受講し、活発な質疑応答も行われました。この特別公演は御厩校長先生やSNET台湾のご尽力により実現することができました。その後、台湾大学生とキャンパスツアーを通じた交流をさせて頂くとともに、歴史ある大学のアカデミックな雰囲気を満喫しました。

4日目には、B&Sプログラムで地下鉄1日乗車券を使い、半日間の台北市巡りで台湾の空気を感じました。午後には、ジブリ映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなったといわれる九份老街を観光しました。最終日は、日本の新幹線輸出第一号である台湾高速鉄道を使って台北駅から桃園空港駅まで乗車し、帰路へと着きました。

美味しい食事と友好的な雰囲気、楽しい異文化交流。その体験のひとつひとつが生徒ひとりひとりの成長に寄与しました。わずか5日間の旅でしたが、最終日の生徒たちの充足した笑顔が何よりも成果であることは間違いないでしょう。

(引率：鴨志田千晃・齋藤高史)

※次ページに続く



大理高級中学交流

米国

令和6年3月3日から9日の日程で、高1生34名、中3生6名が米国海外派遣プログラムに参加しました。

初日は移動およびツインピークスやゴールデンゲートブリッジを訪れ、サンフランシスコの雰囲気を感ぜるとともに、雨に降られたかと思いきや少しすると晴れ間が見える西岸海洋性気候特有の雨期を感じられる天気歓迎されました。

2日目はWilcox高校を訪問し、パディを組み、昼食を含めて3時間目から7時間目まで授業に参加しました。高校時に修得することで大学進学時に単位として認められるAPと呼ばれる難易度の高い授業に参加したり、日本語、数学、化学、経済など様々な授業に参加したりして、同年代の生徒たちとの交流を行いました。また、インテルミュージアムではインテルがどのように発展してきたかを学ぶ貴重な時間となりました。

3日目は午前中にアップル、グーグルのビジターセンターを訪問



日立Vantara本社訪問

し、午後は日立Vantara本社を訪問し、徳永俊昭副社長（昭60卒）にもウェブ会議システムでご参加いただき、シリコンバレーで働く方々の考え方や働く姿勢に触れることができました。また、社内の様子も見学させていただきました、刺激的な1日になりました。

4日目、5日目は大学訪問を行いました。4日目はカリフォルニア大学バークレー校を訪問し、大学生にキャンパスを案内していただいた後、Whitney Hischer先生からビジネスについての講義を受けました。5日目はスタンフォード大学を訪問し、大学生にキャンパスを案内していただいた後、Anurag Mairal先生からバイオデザインについての講義を受けました。両日とも、通訳なしの英語での講義でしたが、戸惑うことなく、時には電子辞書を片手に必死に講義についていく姿勢に頼もしさを感じました。質疑応答も活発に行われ、グループワークでは講義を受けて、バイオデザインについて現状と今後の課題を具体的に挙げながら話し合いを行い、活発に意見交換を行うことができました。その後、



スタンフォード大での講義の様子

セールスフォースタワーも訪問し、61階からサンフランシスコ市内を見渡し、「将来こういう創造的な世界で働いてみたいという気持ちが一層強くなった」と述べる生徒の背中が大きく見えました。

1週間という短い間でしたが、現地在住の上田敏子様（昭60卒）のご尽力のおかげで、現地の高校生と1日じっくり交流する時間をもつことができ、シリコンバレーで働く方々の生の声を聴くこともできました。改めて、知道会の方々のご協力に感謝するとともに、附属中生も含めた2学年での海外派遣プログラムが次年度以降さらにパワーアップしたものになるよう工夫していきたいと思えます。

（引率：ゴンザレスアンドレス・白石拓史）

令和5年知道会会員の集い開催報告

令和5年11月18日（土）水戸京成ホテルにおいて「知道会会員の集い」が開催されました。平成4年卒・平成14年卒・平成24年卒の幹事学年の準備・企画・進行のもと、250名以上の参加で賑やかに開催されました。

代議員会終了後、海外派遣プログラムに参加した生徒による報告が行われました。その後、平成4年卒による講演会として、皮膚科・美容皮膚科医師の中崎恵美氏による「波乱万丈な女性の身体と私の人生」、講演家・登山家・ワイン醸造家・人材コンサルタント業の塙英敏氏による「一度きりの人生を、自分らしく生きる」の二本立てで行われました。

懇親会では稲葉会長（昭38卒）、御厩学校長、大井川茨城県知事（昭58卒）の挨拶の後、長谷川淳三氏（昭23卒）の発声により乾杯、懇談となりました。懇親会の余興においては、水戸市出身のシンガーソングライターの磯山純氏によるミニコンサートで会場を盛り上げていただきました。懇親会の終盤では本校卒業50周年を迎えた方々を代表して横山仁一氏（昭47卒）、沼田克文氏（昭48卒）よりご挨拶をいただき、東京知道会からは平成7年卒の東京知道会幹事学年の皆様より東京知道会集いの紹介をしていただきました。最後に来年度幹事の平成5年・平成15年・平成25年卒へ幹事の印である軍配と法被が引き継がれ、校歌を斉唱、大井川知事にもエールをおくり、盛況のうちに閉会となりました。

次回の会員の集いは令和6年11月16日（土）水戸京成ホテルにて開催予定です。コロナ禍の影響もあって以前よりも若干参加者数が減少しております。実行委員会といたしましては若手会員や女性会員の参加も含めて幅広い年代の卒業生が交流できる場として、より賑やかな集いを次回も企画してまいりますので、より多くの級友、先輩後輩との再会、情報交換ができますよう、会員の皆様の一層のご参加を心よりお待ちしております。



令和6年度定期人事異動

次の方々が異動された。

- 退職 (教科および在職年数)**
 - 小島 淳 (国語、10年)
 - 角田 仁 (数学、3年)
 - 海老澤恭子 (養護教諭、10年)
 - 原田 晋市 (理科、5年)
 - 石川 格 (国語、6ヵ月)
- 転出**
 - 久保 佳彦 (教頭、3年) 水戸南高教頭
 - 竹内 智則 (数学、10年) 守谷高教頭
 - 濱田 真由 (国語、5年) 東海高へ
 - 田中 亮 (地公、9年) 日立一高へ
 - 太田 泰助 (美術、10年) 取手松陽高へ
 - 齋藤 正彦 (数学、3年) 東海村立中丸小へ
 - 鴨志田千晃 (保体、3年) 水戸市立国田義務教育へ
 - 薄井 大輔 (英語、4年) 水戸市立笠原中へ
 - 高橋 宙志 (国語、1年7月) 茎崎高へ
 - 寺田 尚子 (英語、1年) 太田一高へ
 - 二川 学 (技術、1年) 水戸市立第五中へ
 - 小川 直人 (主任、4年) 海洋高へ

- 転入 (学校名は前任校)**
 - 高野 光章 (副校長、鹿島高)
 - 石川 明 (教頭、勝田高)
 - 水口 美帆 (国語、並木中等)
 - 小林 実果 (数学、新規)
 - 日吉 貴之 (数学、水戸二高)
 - 島田 道昭 (数学、竹園高)
 - 武本 夏子 (美術、笠間高)
 - 辻本 咲葵 (養護教諭、鹿島高)
 - 羽成 文江 (数学、土浦二高)
 - 清浦 昌之 (技術、つばサイエンス高兼任)
 - 上田 浩史 (地公非常勤、新規)
 - 山口 壮介 (英語非常勤、新規)
 - 関東 康祐 (情報非常勤、新規)
 - 蛭田 崇雅 (主事、五浦美術館)
 - 堀江 葵 (サポートスタッフ、新規)
- 東北大 27 (20)
茨城大 19 (15)
筑波大 35 (23)
埼玉大 3 (3)
千葉大 5 (4)
お茶の水女子大 1 (1)
東京大 11 (6)
東京医科歯科大 2 (2)
東京外語大 3 (3)
東京学芸大 1 (1)
東京工業大 3 (2)
一橋大 1 (0)
横浜国立大 1 (0)
名古屋大 1 (1)
京都大 6 (4)
大阪大 2 (1)
九州大 1 (1)

附属中学校・水戸一高入試報告

附属中入試倍率

3.85倍 (定員80名)

志願者数 308名

水戸一高入試倍率

1.65倍 (定員160名)

志願者数 264名

水戸一高特色選抜

2.75倍 (定員4名)

志願者数 11名

○ 私立大学

- 青山学院大 21 (12)
- 慶應義塾大 19 (9)
- 上智大 11 (9)
- 中央大 37 (19)
- 東京理科大 78 (34)
- 法政大 38 (18)
- 明治大 63 (36)
- 立教大 30 (21)
- 早稲田大 27 (18)

○ 医学部医学科

- 国公立 17 (12)
- 私立 17 (3)
- 準大学 3 (2)

(令和6年4月1日現在)

入試結果と進路状況

主な大学の合格者数を以下に記す。()内は現役合格者数。

○ 国立大学

- 北海道大 12 (11)

第73期第51回代議員会

第73期 (令和4年10月~令和5年9月) 第51回代議員会が令和5年11月18日(土) 知道会会員の集いに先立ち13時から水戸京成ホテルにおいて開催されました。審議等概要は以下の通りです。

- 第72期事業報告として委員会活動と事業、母校助成協力事業および学年・地域・職域知道会の活動状況が河野幹事長から報告され、了承されました。
- 第72期決算について出澤財務委員長から、監査結果について安監事から報告され、承認されました。
- 第73期の事業計画案が河野幹事長から説明され、原案通り承認されました。
- 第73期の予算案が出澤財務委員長から説明され、原案通り承認されました。
- 母校40周年記念事業について河野幹事長から報告され、了承されました。

第73期 収支予算書

自令和5年10月1日
至令和6年9月30日

(単位:円)

収入の部				備考
科目	予算額 a	前期予算額 b	増減額 a-b	
年会費	7,000,000	8,000,000	△ 1,000,000	
卒業生入会金	1,400,000	1,600,000	△ 200,000	280名
寄附金収入	500,000	500,000	0	
会員の集い収入	2,200,000	1,800,000	400,000	300名参加+広告料収入
システム収入	100,000	200,000	△ 100,000	冊子・ネクタイ等
受取利息	0	0	△ 100	
特別積立金取崩	0	200	△ 200	
140周年会計から繰入	2,000,000	2,000,000	0	*1 *2
雑収入	50,000	50,000	0	
当期収入合計	(13,250,100)	(14,150,200)	(△ 900,100)	
前期繰越金	(4,900,144)	(4,410,930)	(489,214)	
収入の部合計	(18,150,244)	(18,561,130)	(△ 410,886)	
支出の部				備考
科目	予算額 a	前期予算額 b	決算額-予算額	
運営費	(10,850,000)	(10,730,000)	(120,000)	
会員の集い費	2,200,000	1,800,000	400,000	
会議費	200,000	200,000	0	合同委員会・連絡会
事務局運営費	1,500,000	1,500,000	0	事務局人件費
システム維持費	2,200,000	150,000	△ 30,000	ネットワーク維持費・幹事長システム保守
通信費	2,200,000	2,000,000	200,000	会報送付料等
消耗品費	150,000	150,000	0	
旅費交通費	200,000	250,000	△ 50,000	
渉外費	100,000	100,000	0	
支部強化費	400,000	400,000	0	
振替手数料	750,000	750,000	0	年会費等振替手数料
印刷費	2,800,000	3,200,000	△ 400,000	会報・振替用紙等印刷費
リース料	200,000	200,000	0	
事業費	(400,000)	(400,000)	(0)	
総務委員会費	20,000	20,000	0	
財務委員会費	20,000	20,000	0	
広報委員会費	100,000	100,000	0	
名簿委員会費	10,000	10,000	0	
親睦委員会費	150,000	150,000	0	
会費納入促進対策費	100,000	100,000	0	自振キャンペーン
母校助成費	(3,360,000)	(3,360,000)	(0)	
卒業記念品費	660,000	660,000	0	卒業証書フォルダー・マグカップ
歩く会補助費	200,000	0	200,000	
大会遠征費補助費	600,000	800,000	△ 200,000	*1
卒業生褒賞費	400,000	400,000	0	
海外派遣助成費	1,500,000	1,500,000	0	*2
特別積立金繰入	(0)	(0)	(0)	
予備費	(3,540,244)	(4,071,130)	(△ 530,886)	
当期支出合計	(18,150,244)	(18,561,130)	(△ 410,886)	
次期繰越金	(0)	(0)	(0)	
支出の部合計	(18,150,244)	(18,561,130)	(△ 410,886)	

*1 生徒の大会出場交通費に対する140周年記念事業募金を原資とした助成

*2 「生徒海外派遣プログラム」に対する140周年記念事業募金を原資とした助成

このページでは、昨年の秋以降に公式戦等で活躍した部活動および個人の紹介をします。

硬式野球部 第96回選抜高等学校野球大会 21世紀枠（関東代表校）選出

知道会員の皆様方におかれましては、日頃より本校硬式野球部にご支援・ご声援を賜り厚く御礼申し上げます。我々は、昨秋の県大会でシード校・常磐大高に勝利してベスト4に進出したことなどが評価され、第96回選抜高等学校野球大会における「21世紀枠」の関東代表校に選出されました。残念ながら甲子園出場とはならず、悔しい思いをしましたが、目標であった甲子園が目前まで迫ったことは大きな自信となりました。この悔しさと自信を胸に、春季大会、そして夏の選手権大会に向けて練習を積み重ねてまいります。今後とも応援のほど宜しくお願いいたします。



部員集合写真

合唱部 令和5年度茨城県高等学校総合文化祭 総合開会式 出演（合唱部代表）

令和5年度茨城県高等学校総合文化祭総合開会式（10月24日開催）に合唱部の代表として出演しました。8月に開催されたかごしま総文での成果発表を兼ねているので、演奏だけではなく生徒の感想や体験も発表しました。3年生は引退後だったのですが1・2年生だけでは5人になってしまうため受験勉強が忙しいうち出演してもらいました。かご



会場前

ま総文で演奏した「鷗」と「おんがく」を披露し、思い出話などをしながら和やかな時間をすごせたと思います。



出場者全員で記念撮影



会場前で撮影（左が野中、右が堀野）

フィギュアスケート（個人） 令和5年度茨城県高等学校総合 体育大会出場および選手宣誓

令和5年度茨城県高等学校総合体育大会（笠松運動公園内山新スイミングアリーナ 令和6年1月17～21日開催）。

26組 佐川瑚桜

「これが背筋が伸びるということなのか」。大会開始式の選手宣誓に臨んだ。氷上に敷かれた赤いカーペットの上で、隣に立った雪月花選手のはっきりとした口調、騎手の実優選手のまっすぐな視線に私の体と気持ちは引き締まった。

私の競技はその2日後。初めてのインターハイ出場、滑走順は一番。直前の練習まで不調だったジャンプが不安なことはもちろん、ステップやスピンの練習を重ねても、緊張は取れなかった。正念場を前に、笠松で練習している先輩選手が「がんばってね。出ないのに、私もどきどきしてきた。」と笑顔で励ましてくれた。私の緊張の何%かを引き受けてくれているような言葉に、少し不安な気持ちがやわらいだ。

本番。6分間練習でリンクに飛び出すと、観客席から、いっしょに練習を積んできた同じクラブの選手たちの声援が聞こえた。転んでも、難しくても、できても、できなくても、同じミスを何度繰り返しても、あきらめずに、何年も一緒に練習してきた仲間だ。みんな一緒に私と共に私

の2分38秒間に集中してくれた。転んでしまったジャンプにも大きな「がんばれ」の拍手をしてくれて、ありがとう。演技後には、どの選手への拍手よりも大きな拍手をしてくれてありがとう。

持ち前を表現できて自信ある表情になった友。上位常連なのにミスをしてしまい落ちこんでいる友。出場がなかったのにリンクの故障で練習ができなくなってしまった友。それぞれの場所でどれだけ努力してきたのか、その演技と表情を見て分かった。だから、悔しい気持ちはあるが、前を向ける。みんなと同じリンクで滑ることができてよかった。目標だった自己ベスト更新は、今回は果たせなかったが、トップ選手の美しい滑りや高難度のジャンプを目の前で見ることができた。インターハイでたくさんの宝物を見つけることができた。

女子バレーボール部 水戸三高との合同チーム結成

3年生が引退して選手4人、マネージャー1人となり、単独での大会出場ができなくなった。そこで、同じく単独チームが組めない状況であった水戸三高さんと、生徒の出番を作る為に合同チームを結成した。結成当初は生徒同士で互いに遠慮してしまうことが多かったが、練習ゲームを戦いながら徐々に戦術的な会話や普段の交流も増えていった。互いを尊重しようとする気持ち、失敗してもカバーしようとする気持ちなど、内面的に成長できた。バレーも楽しく活動することができ、新人戦では目標としていた県大会出場を果たした。

第16回日本地学オリンピック本戦 （国内3次予選兼2024年国際地学 オリンピック日本代表選抜）出場

第16回日本地学オリンピック本戦（国内3次予選兼2024年国際地学オリンピック日本代表選抜）が、3月10日から3日間の日程でつくば市にて開催され、本校から21組後藤智樹さんと22組長谷川菜子さんの2名が出場しました。複数名の生徒が本選に出場するのは水戸一高では初めての快挙です。

本校生徒の地学オリンピックでの実績は、2016年第8回で伊藤育さん、2020年第12回で桐原大地さん、

2023年第15回で木村真幸さんが本選に出場しました。いずれの大会も約60名から4名に絞り込まれる「日本代表」には残念ながら選出されませんでした(桐原さんが出場資格を得た2020年第12回大会はコロナ禍の影響で世界大会が中止になり本選も中止)、みなさん素晴らしい成績を残されました。

地学オリンピックは、数学・情報・物理・化学・生物・地学・科学地理と7種類ある国際科学オリンピックのひとつで、歴史は浅いものの文系の生徒も受験しやすいことから、一次予選参加者数は年々増加しています。試験は、地質・固体地球・気象・海洋・天文の5分野から出題される記述式試験と標本(岩石・鉱物・化石)鑑定試験があります。

地学は、SDGs達成と自然災害理解に役立つ自然科学で、私たちの生活に最も身近なサイエンスと言っても過言ではありません。日頃から目の当たりにして、当たり前のように接している身の回りのすべての事象には、その成り立ちに理由があります。その要因や法則性を探求し理解していく科学が地学なのです。特に命に係わる台風、線状降水帯、土砂災害、火山噴火、地震、津波などの自然災害の理解には、気象学、地質学、火山学、地震学、海洋学などの学問が重要になります。まさに「生きる力を養う科学」が地学なのです。

今回の第16回日本地学オリンピック本戦は、オブザーバーとして参加した地学オリンピックOBのコメントを借用すると「標本鑑定は今までで最も難しい」戦いだったようで、大変残念ながら本校から出場した二人は日本代表の4名に残れませんでした。しかし、3,000名を超える一次予選参加者から60名に絞り込まれた本選で戦い、全国の名だたる強豪校の地学学徒と交流できた貴重な経験は、二人の今後の人生に大いに役立つと共に、これから地学オリンピックを目指す後輩たちへの大きな励みになるものと確信いたします。

吹奏楽部

第29回東関東アンサンブルコンテスト出場

第26回ソロコンテストいばらき

県代表(げんでん音楽賞)

第22回関東甲信越支部大会出場

令和6年1月27日(土)栃木県宇都宮市文化会館にて開催された第

29回東関東アンサンブルコンテストに、12組田中柚衣・14組菊池慧一郎・14組郡司柑太郎の3人によるクラリネット三重奏が出場し、銅賞を受賞いたしました。

また、令和6年1月20日(土)&21日(日)東海文化センターにて開催された第26回ソロコンテストいばらきにおいて、次の通りの結果となりました。

【中学生の部】

金賞：西郷芽咲(1A組フルート)

銀賞：井上桃寧

(3A組ユーフォニアム)

銅賞：木上さつき

(3A組ファゴット)

【高校生の部】

金賞・げんでん音楽賞：

郡司柑太郎

(14組クラリネット)

金賞：大内悠生

(22組アルトサクソ)

げんでん音楽賞を受賞した郡司さんは、茨城県代表として全日本中学生・高校生管打楽器ソロコンテスト第22回関東甲信越支部大会に出場し、優秀賞を受賞しました。皆様からのご支援に対し、心より感謝申し上げます。



アンサンブルコンテスト代表3名(CI三重奏)

水泳部

令和5年度関東大会出場

東京五輪水泳会場である東京アクアティクスセンターにおいて開催された令和5年度関東大会(7月21~23日)は、所属部員全員が出場することができた(個人男子3名5種目、リレー男子3・女子1種目)。これに先立つ県予選大会(6月)では、男子リレーが快進撃し(メドレー400m 1位、自由形400・800mで2位)、参加62校中、学校対抗総合2位となった。県内勢では公立校トップの成績をもって上位大会に出られたのは、部員の日頃からの鍛錬に他ならない。入学年度は感染症対策で大会自体が縮小せざるを得なかった3年生も存分に活躍できて満足気である。心身あわせての伸長も見て取れる、今後も期待したい。

スキー部(個人)

令和5年度高等学校総合体育大会

(インターハイ) 其他選抜

茨城県代表出場

24組 綿引一樹
相手は雪国の選手ばかり。一段階も、二段階もレベルが違う。本番の数日前から、彼らの滑りに圧倒された。滑りが力強い、速い、格好良い。ポールの無い、ただのフリー滑走でも、やはり上手い。少しでも良い滑りをしたいと思い、本番に臨んだ。どのレースでもコースはかなり難しく、かなりの技術や体力を求められるものだった。結果としては、さすがにトップ層には敵わなかった。体力が切れかけたり、ミスをしたりと、失敗はあった。が、同時に練習の成果を出せた事など、良い部分もたくさんあった。上手い人の滑りを沢山見て、実際に彼らとレースをした事は、より上手くなりたい、彼らのレベルに近づきたいと一層強く思うきっかけとなった。それと、やはり私は父と同じ「スキー大スキー人間」のようである。楽しみながら、上達しながら、スキーをしていきたい。

英語研究会部(ESS)

第16回全国高等学校英語

スピーチコンテスト出場

2年の岩田楓季が、2月11日に開催された第16回全国高等学校英語スピーチコンテストに、関東甲信越地区代表として出場しました。国立オリンピック記念青少年総合センターの大ホールで「Breaking Down Barriers」という題目の下、スピーチをしました。緊張はありましたが、練習の成果を発揮し、自分の中で最も良いスピーチをすることができました。全国各地から選ばれた高いレベルの英語スピーチを聞くことや審査員との対話を通して、様々なスピーチスタイルを学びました。今後につながる素晴らしい学習の機会になりました。



会場で記念撮影 岩田(左)、顧問ゴンザレス(右)

『文武一塗 水戸第一高等学校剣道部史』刊行

矢吹俊吉（昭48卒）

剣道部OB会が部史編集委員会を結成したのは2018年のことでした。コロナ禍で中断を余儀なくされたものの、昨年10月に完成。12月29日、ホテルレイクビュー水戸において刊行記念の剣道部大同窓会を開催しました。歴代顧問の先生方、80代の大先輩方から現役部員まで参加者およそ100人。合同稽古から祝賀会まで、大いに盛り上がった一日でした。

部史の編纂にあたっては、知道会事務局のみなさんはじめ、たいへん多くの方々にご協力をいただきました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

剣道は戦後、GHQによって禁じられ、剣道部が復活したのは昭和28年のこと。部活動の断絶が大きく、戦前の剣道部については断片的な情報しか伝わっていませんでした。今回の調査では、明治以来の知道会会報、各新聞の縮刷版や剣道史関連書籍を参照することで、近代剣道の歴史とともに歩んだ水戸中学剣道部（初期は撃剣部）の実像が浮かび上がってきました。初代師範となった小澤二郎は、烈公德川齊昭が創始した水府流剣術の継承者であり、いささか強引ながら、わが剣道部の淵源は水戸藩に直結していたともいえるでしょう。剣道に青春を捧げた戦前の部員の手記を読むと、時代を超えた共感を覚えます。

焼け跡からの剣道部復活については、当事者の方々の談話を収録。さらに昭和28年度から令和5年度まで各年代の代表者による寄稿を得て、明治から現在に至る剣道部の歴史が通観できるようになりました。

部史はA4判160ページ。少々残部がありますので、ご希望の方は知道会事務局までご連絡ください。



平成18年卒同窓会

令和5年11月11日水戸三の丸ホ

テルにて平成18年卒の同窓会を開催しました！

2017年の卒業後第一回同窓会からコロナ禍を経ての開催となった第二回同窓会。同窓生75名、恩師6名に加えて稲葉知道会会長にお越しいただき総勢82名が集い、稲葉知道会会長による乾杯のご発声を皮切りに旧交を温めました。

当方からの幹事挨拶の中で、仕事・家庭などそれぞれの状況下で頑張る中で今回集えなかったメンバーの分まで楽しみ次集う機運を作ることをお願いしました。多くの笑顔が溢れる場であったこと、更には40歳になる際に第三回同窓会開催の合意形成ができ、お願い通りにそれぞれが楽しみ盛会になったものと思っております。

開催にあたりご協力ご尽力いただいた各クラス幹事や知道会事務局の方々、そして何より代表幹事を共に担った中澤君・小野瀬君の両名に心からの感謝を表します。

次は3年後、また元気に集まれることを心待ちにしています！

代表幹事 川島莊介（平18卒）



西日本水中一高会

去る12月2日(土)、大阪城そばのKKRホテル大阪にて、4年ぶりに対面での総会を開催し、来賓を含め21名の方にご参加いただきました。はるばる水戸からお越しいただき、懐かしい母校の状況などをご報告いただいた、水戸一高の御厩校長、知道会の河野幹事長と出澤財務委員長には、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。総会では、事業報告・事業計画、決算・予算など、予定していた議題が無事承認され、その後はすぐ懇親会となりました。皆さんが久しぶりに直接顔を合わせる機会なので、講演などは省略し、懇親を深める時間を多くとったわけです。近況報告をするだけの簡単な企画でしたが、時間いっぱい大いに盛り上がりました。やはり、直接顔を合わせて交流することが大事だというこ

とが認識できた次第です。最後に、会場からは、大阪城を正面に見てのすばらしい眺望が楽しめたことも書き添えておきます。

副会長 笹沼一弘（昭58卒）



6年振りの学年同窓会

コロナ禍で延び延びになっていた学年同窓会を、2月17日(土)水戸京成ホテル2階の宴会場で開催しました。当日は知道会本部から河野事務局長に出席戴き、同級生も93名出席し、盛大に開催することができました。

私たちの学年でも約50名、ひとクラス分の同級生が鬼籍に入り、担任の先生方も全員亡くなられており、会の最初に黙祷をしてから始まりました。

同級生の「粹好会バンド」が懇親会を盛り上げてくれました。この6年間、コロナでみなさん思うように動けなかった分、和気あいあいと話しに夢中になりあっという間に2時間が経過し、最後に校歌斉唱で締めくくりました。次回の同窓会はどのようなスタイルで開催するか、同級生バンドとか、ゴルフコンペ大好き同級生の会とか、これからの同窓会を幹事のみなさんと相談しながら準備していきたいと思っております。

代表幹事 皆川真規夫（昭45卒）



東京知道会「同窓の集い」

令和6年2月24日(土)、大手町サンケイプラザにて開催しました。平成7年卒幹事のもと、翌日に海外研修引率の出発を控えた御厩水戸一高校長も駆け付けてくださり、参加

者290名の盛会となりました。

記念講演は、緩和医療医師・大津秀一さん（平7卒）による「死ぬときに後悔すること」。YouTubeでも活躍する大津さんの分かりやすい説明に、モデレーターの森田麻紀さん（平成7年卒・看護師）との息の合ったトークも加わり、時間を過ぎても質問が絶えず、「後悔しない生き方をしたい」参加聴講者に興味深い講演となりました。

尚、来年は、令和7年2月15日（土）の開催を予定しています。詳細は、各種行事（ゴルフ会／5月、女子グルメの会／6月、夏休み行事／8月等）の案内と合わせて、東京知協会ホームページに掲載します。来年も皆様にお会い出来る事を楽しみにしています。

会報委員長 渡辺裕子（昭60卒）



親睦ゴルフコンペ

令和5年10月5日にスターツ笠間ゴルフ倶楽部において知協会親睦委員会と東京知協会共催で親睦ゴルフコンペを行いました。天候にも恵まれ、40名が参加され親睦を深められたと思います。同級生同士の組み合わせでプレー、昼食をはさみ、前半戦での反省点を踏まえ、後半戦に臨み、プレー終了後、お風呂で汗を流し、パーティー開催。参加者のスコアを披露し、用意した茨城県産の常陸牛、しじみ、サザコーヒー、壺バウム等豪華景品を前にして、裡に秘めた望みのものを手にすることができますのか、発表前の緊張感が伝わり、冷静を保ち一転、目の前の現実に一喜一憂しながら、お互いを称えあい和やかに幕をとじました。親睦委員会では、今後も、ゴルフに限らず、会員の皆様方からの意見を参



考に、参加しやすい内容を企画していきますので、引き続きよろしく願いいたします。

歩く会支援

10月7日、8日に行われた、第75回水戸一高歩く会において、学校からの要請により初めて知協会本部としてサポートチームを編成し、総勢20名余が出発地と中休止地での清掃消毒、自由歩行関門の設置と撤収、資機材トラックの運転などの支援にあたりました。現在学生の若き知協会会員（令4、令5卒）も学年内での呼びかけに応じて実行委員経験者を中心に7名が参加しました。団体歩行は常北中～内原経由～学校、自由歩行は那珂川沿いに学校～国田大橋～学校のコースをほぼ予定通りの時間で歩き（走り）、8日の10時40分に自由歩行最後尾の実行委員長のゴールをもって終了しました。今年もまた1回伝統を重ねることができたのは、教職員や生徒実行委員の皆さんの尽力はもちろんですが、医療チームAMATや奨学会（保護者）、沿道の地域知協会やサポートチームに参加下さった会員の皆様、そして地域住民の方々など、たくさんの方のご協力と温かい応援の賜物と思っております。改めて感謝を申し上げます。



合同委員会を開催しました

2月3日（土）水戸京成ホテルにおいて合同委員会を開催しました。知協会の全委員が一堂に会するものですが、コロナを経て5年ぶりの開催になりました。

河野幹事長からは第73期の活動方針ならびに今後の計画について説明があり、出席の委員はそれぞれ稲葉会長から委嘱状を手渡されました。終了後には懇親会に移り、各委員同士の交流を深める機会になりました。

第73期 学年・地域・職域活動状況

（令和5年10月1日～令和6年3月31日）

学年同窓会・その他

令和5年10月14日

三三会（昭33卒同窓会）

令和5年11月7日 昭40卒同窓会

令和5年11月11日 平18卒同窓会

令和5年11月25日 昭41卒同窓会

令和5年12月29日 剣道部OB会

令和6年1月2日 昭39卒同窓会

令和6年2月17日 昭45卒同窓会

令和6年2月28日

三八会（昭38卒同窓会）

令和6年3月4日

三四会（昭34卒同窓会）

地域・職域知協会

令和5年10月29日 石岡知協会

令和5年12月2日 瓜連知協会

令和5年12月2日

西日本水中一高会総会・講演会

令和6年1月21日 常陸太田知協会

令和6年2月24日

東京知協会「令和6年同窓の集い」

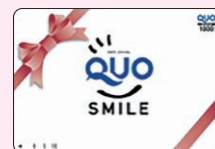
令和6年3月15日 五軒知協会

年会費の納入に、スマホ決済もできるようになりました

コンビニエンスストアでの払込票に、スマホ決済用のバーコードが追加されました。PayPay、LINE Pay、au PAY、PayB を利用している方は、アプリを起動し、払込票下部のバーコードを読み込み、ご自宅ですべてコンビニ支払を完了することができます。

預金口座振替もできます。現在、「口座振替キャンペーン」として9月30日までに口座振替の手続きをして頂いた方を対象に、クオ・カード（1,000円）を進呈しております。

詳しくは事務局（029-226-3960月・水・金）にお問い合わせください。



総務委員会

2月3日(土)に水戸京成ホテルにて第73期幹事会・合同委員会を実施いたしました。コロナ禍で数年開催できず、稲葉会長のもとでは初の合同委員会開催。役員、委員メンバーの委員会を越えた横の繋がり、懇親においても有意義な時間となりました。

また、令和6年知道会会員の集い実行委員会のスタートとして、4月に昨年の会員の集いの反省会および幹事引継ぎ会を開催して、令和6年知道会集いの実行委員会がスタートいたします。その後11月の知道会会員の集いに向けて、総務委員会と本年の集いの企画運営にあたる学年幹事(平成5年、平成15年、平成25年卒)で構成される実行委員会を5月より毎月実施予定です。令和6年知道会会員の集いの実施詳細につきましては、随時知道会ホームページ等でお知らせ致します。多くの会員の皆様に参加していただき、楽しく懇親を深められる集いを企画運営できますよう計画を進めていく所存です。楽しみに本年の会員の集いをお待ちください。

財務委員会

年会費で母校支援!

知道会の年会費は、本会の運営費のみならず母校支援にも使われております。皆様の年会費が後輩の学校生活の一助になる、素敵なことですね。母校支援のためお忘れなく年会費の払込みをお願い致します。

年会費の払込みには従来の郵便振替、銀行振込、自動引落し、コンビニ払いに加えて、スマホ決済もご利用頂けるようになり、益々便利になっています。スマホ決済は、会費の払込取扱票(郵便振替用紙)の通信欄に記載のバーコードを決済アプリで読み込むことでお支払いを進めて頂けます。払込取扱票が付いている会報が届いている方は是非一度お試し下さい。

自動引落しも引き続き絶賛受付中です。次年度から自動振替をご希望の方は、今年度分の年会費払込みの際に払込用紙の通信欄に「自動振替希望」とご記入頂くか、お電話にて事務局(TEL 029-226-3960)にご連絡下さい。

財務委員会では、払込み方法の多様化を含めて更なる利便性向上の検討を進めて参ります。

名簿委員会

2023年7月、令和5年(2023年)版会員名簿が無事発行されました。会員の皆様のご支援・ご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。

ICTやSNSの発展、それに伴う紙媒体・固定電話の減少など情報・コミュニケーション手段をめぐる情勢の変化は、少し前には考えも及ばなかったものです。この様な中で今後、名簿の発行にあたっては、会員の皆様からもご意見・ご提案をいただきながら、形態や掲載内容等その時々状況に合ったものになる様、検討を重ねていく所存です。

なお、卒業生の皆様の消息・住所などの確認及びデータの

更新は名簿委員会の重要な任務の一つであり、この情報は必要時に会員相互の親睦や職域の情報交換等の一役を担う非常に貴重なものです。名簿委員会としては細心の注意を払いながら事務局との協力の下に有用なデータ管理を継続していく所存です。会員の皆様には引き続きのご支援につきよろしくお願い申し上げます。

広報委員会

知道会報は、令和5年度よりweb発行併用となりました。102号より、紙での発行は秋の年1回となり、偶数号(春発行)はweb、奇数号(秋発行)は、印刷にて全会員の皆様に郵送いたします。偶数号・奇数号ともweb版の会報はカラー掲載です。ぜひ知道会HPよりご覧下さい。なお、昭39卒以前の会員の皆様には、従来通り、春・秋の年2回郵送いたします。母校と知道会、そして会員の皆様同士を繋ぐツールとして、幅広く情報を掲載して参ります。

第73期 知道会幹事会及び委員会名簿

顧問	後藤卓三(S19)、角田芳夫(S28)、鬼澤邦夫(S38)、御厩祐司(校長)
会長	稲葉節生(S38)
副会長	井内義興(S33)、後藤克己(S43)、江幡秀則(S47)、栗原英則(S48)、伊藤道子(S53)
幹事長	河野秀幸(S63)
副幹事長	飯塚博之(S56)、鹿志村茂(H5)
総務委員会	*◎齋藤修(H6)、*○富澤英士(H1)、*○坪井正幸(H5)、黒木雅宏(S58)、橋本慎(S58)、竹村広治(H3)、加瀬昭宏(H5)、佐藤蘭弥(H8)、星野博史(H11)、住谷直樹(H14)、矢板淳一(H16)、北澤佑子(H17)、山村美樹(H19)、藤枝咲絵(H23)
財務委員会	*◎出澤琢磨(H1)、*○仲田留美(S63)、*○坂本正弘(H1)、太田聖史(S58)、猪野嘉彦(H2)、坪なぎさ(H3)、浦田裕士(H7)、小川哲(H8)、稲野知穂(H19)
名簿委員会	*◎加賀美理帆(S59)、*○後藤直樹(S54)、*○野村貴広(H7)、須能浩信(S60)、岡村太郎(H7)、岡村有希子(H7)、渡邊優美(H15)
広報委員会	*◎磯美保(S60)、*○森田真理子(S56)、*○和知忠道(H11)、内藤学(S53)、後藤岳志(S54)、平井夏樹(S56)、栗田真人(S57)、平山桂己(S59)、小林典子(H6)、☆小野瀬勇一(H8)、中原清人(H9)、平戸正英(H13)
親睦委員会	*◎加藤尚弘(H6)、*○磯崎雄司(H1)、*○海老根武(H2)、田部田英智(H6)、堀野辺直(H6)、藤田奈津子(H13)
幹事	*小田木健治(S59)、*山崎剛(S58)、*小貫智也(H3)、☆*長山昌子(S62)、☆*鈴木康太(H18)、☆*小澤光浩(S57)
監事	小野瀬益夫(S51)、安智範(S60)
事務局	石川格(S50)、徳永美佳(S59)

() 卒業年次、* 幹事、◎委員長、○副委員長、☆新任 2024.4.1現在

知道会館のロビーを

リニューアル

いたしました!



学校基本データ

学校創立 1878年(明治11年)10月2日
 令和6年 創立146年
 同窓会員数 40,062名
 住所判明者数 21,099名
 在籍生徒数 高校 722名(男子441名 女子281名)
 中学 240名(男子120名 女子120名)
 (令和6年4月現在)